

令和4年度第1回常滑市総合教育会議

開催日	令和4年8月18日(木)
開催場所	常滑市役所1階会議室F
時間	開会 午後3時00分 閉会 午後4時40分
出席者	市長 伊藤 辰矢 教育長 土方 宗広 教育委員 藤田 幸恵 教育委員 渡辺 慶太郎 教育委員 久田 孝寛 教育委員 梶田 幸司
事務局	教育部 教育部長 安藤 哲成 学校教育課長 竹内 孝光 生涯学習スポーツ課長 浜崎 博充 北学校給食共同調理場長 山本 浩史 南学校給食共同調理場長 伊藤真由美 学校教育課主査 服部 将規 学校教育課主任 佐竹 利規 企画部 企画課長 柴垣 道拓 企画課主査 亀井 哲也
傍聴者	なし
議題	(1) 常滑市教育振興基本計画の策定について

発言者	発言の要旨
教育部長	<p><開 会></p> <p>全員お揃いになり、定刻でございますので、ただいまから令和4年度第1回常滑市総合教育会議を開催いたします。</p> <p>総合教育会議につきましては、地方公共団体の長と教育委員会が十分な意思疎通を図り、教育の課題及び目指すべき姿等を共有しながら、連携して効果的に教育行政を推進していくことを目的とする会議のことで、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4に基づくものでございます。</p> <p>それでは、始めに首長部局を代表して伊藤市長にごあいさつをいただきたいと思います。伊藤市長、お願いいたします。</p>
市長	<p>本日は、ご多用の中、総合教育会議にお集まりいただき、ありがとうございます。また、教育委員の皆様におかれましては、日頃より常滑市の教育行政にご理解ご協力いただき、厚く御礼申し上げます。</p> <p>さて、昨年度、本市では第6次常滑市総合計画を策定しました。「安全」、「安心」、「成長」の3つの視点により、市民の皆さんがずっ</p>

	<p>と住み続けたいと思える「まち」を目指すため、今年度から各分野において取組を開始したところでございます。総合計画に載せている事業は、それぞれが重要で必要不可欠であると思っておりますが、特に「まちづくり」に必要なのは「ひとづくり」であり、「ひとづくり」に必要なのは「教育」だと思っております。魅力ある「まち」を目指すうえで、未来を担う子供たちを育てる環境の整備や、どのような環境でも子供たちの学びを保障することができる教育支援体制の整備は、特に重要な取組だと考えております。</p> <p>そのような中、今年度予算から、教育の分野においては、これまで1名体制で活動していたスクールソーシャルワーカーを新たに2名雇用し、3名体制とすることで、様々な問題を抱える子供たちへの支援体制を強化いたしました。</p> <p>また、私自身、子供たちの取り巻く環境に左右されず、学びの機会を提供できるような取組をしてほしいと思っていたところ、教育委員会が中学生を対象とした地域未来塾の事業内容を見直し、これまでの自習形式による学習機会の提供に加えて、学習塾に通っておらず、数学に苦手意識がある中学生を対象に、数学を克服するための教室を試行的に開講していただきました。こうした事業は、どんどん進めていっていただけるように、私としても後押ししていきたいと考えております。</p> <p>本日の議題は「常滑市教育振興基本計画の策定について」でございます。昨年度に策定した第2次常滑市教育大綱の基本理念であります「ふるさと常滑を愛し よりよい社会と人生の創り手を育む」の実現に向けて、基本方針に基づいたそれぞれの取組を計画的に実行し、喫緊の課題を着実に解決していくため、大変意義のある計画だと考えておりますので、皆様の忌憚のないご意見を伺いながら、計画の策定を進めてまいりたいと考えております。</p> <p>本日は、よろしく願いいたします。</p>
教 育 部 長	<p>ありがとうございました。続きまして、教育委員会を代表して、土方教育長にごあいさつをいただきたいと思っております。土方教育長、お願いいたします。</p>
教 育 長	<p>皆様、ご多用の中お集まりいただき、ありがとうございます。今回、議題となっている教育振興基本計画の策定については、教育委員会としても今後の取組を実施していく上で、必要なものであると捉え、この度、議題として挙げさせていただいたものでございます。</p>

<p>教 育 部 長</p>	<p>昨年、この総合教育会議で検討し、策定した第2次常滑市教育大綱とは異なり、教育振興基本計画は努力義務に位置付けられています。しかし、大綱においていくら理念や方針を掲げても、7年間という長いスパンの中では、「具体的にどうやっていくか」がどうしても抜け落ちてしまいがちです。</p> <p>どの市町においても大綱では大きくかっこいい理念が掲げられていますが、実際はなかなか実現できていないという印象を受けます。そうした「絵に描いた餅」のような状態にならないように、大綱の理念や方針に基づいた具体的な計画を示すところまで、しっかりと策定していきたいと考えています。</p> <p>また、各種取組を実施していく上で、どうしても予算は必要になってきます。しかし、どれだけ予算が必要だと訴えても、肝心の具体的な計画を示すことができなければ、市に明確な形で要求をすることもできません。そういう意味でも教育振興基本計画の策定は重要であると考えています。</p> <p>教育振興基本計画の策定主体は、教育基本法上、地方公共団体となっておりますが、資料の計画<素案>を教育委員会名で示してある通り、市の教育分野の担当部署として、皆様や首長部局のご意見を参考にさせていただきながら、責任をもって策定していきたいと考えております。令和4年12月での策定に向けてご協力の程よろしくお願ひします。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>それでは、次第に沿って会議を進めさせていただきます。</p> <p>議事の進行につきましては、「常滑市総合教育会議設置要綱」第4条に基づき、市長にお願いすることとなっております。</p> <p>市長、よろしくお願ひいたします。</p>
<p>市 長</p>	<p><議 題></p> <p>それではここからは、私が議事進行を務めさせていただきます。円滑な議事進行に、皆様のご協力をお願いいたします。</p> <p>議題（1）「常滑市教育振興基本計画の策定について」、事務局から説明をお願いします。</p>

学校教育課長	資料に基づき説明。
市長	<p>ありがとうございました。ただいま、事務局からも説明がございましたが、常滑市教育振興基本計画は、11月の総合教育会議で最終案を作成するスケジュールとなっておりますので、本日の会議では資料を参考にしながら、意見交換していきたいと考えています。</p> <p>計画に関することはもちろんですが、教育全般のことについても何でも結構です。皆さんからの様々なご意見をお伺いできればと考えておりますので、よろしくお願いします。</p> <p>せっかくの機会ですので、順番に反時計回りで一言ずつご意見をお伺いしたいと思います。</p>
委員	<p>計画の素案を拝見させていただいて、教育とは何なんだろうと改めて考えました。私自身、子供たちには小さな頃から様々な経験をしてほしいと思っていて、学校は勉強や集団生活を学ぶ場ですが、限られた成長期にいろいろな経験をして「引き出し」を増やしていってもらえれば、将来どのような環境でも対応ができる大人になるのかなと思います。また、常滑市は新興住宅が中心となっている地域、古い町並みが中心となっている地域など、環境が異なっている中で、それぞれの環境を活かして地域の人たちにも子供たちを育ててほしいと思いますし、子供が育つためには、親も育たなければいけないと思うので、「家庭教育」に関する取組も積極的に発信させていただいて、幅広い世代を育てながら、常滑自身も育っていければと思いました。</p>
委員	<p>計画の素案の中で気になった点についてですが、まず、国際交流事業については、現在、新型コロナウイルス感染症拡大が世界的な問題となっている中で、本来の国際交流の活動ができない状況にあると思います。はたしてこれまで通りの取組が継続していけるのかが疑問に感じました。</p> <p>もう一点としては、部活動の地域移行についてです。これはあくまで休日の部活動を地域移行するのがゴールなのか、また、受け皿としては体育協会やスポーツ少年団が一般的な考えになるかと思いますが、近年ですと水泳やソフトボール等の競技団体が減っているという実情がある中で、学校が部活でやっている競技との不一致や、指導者への負担など、考え出すと様々な問題が出てきます。令和7年度までにはたして実行することができるのかが疑問に感じました。</p>

<p>教 育 部 長</p>	<p>国際交流については、委員のおっしゃるとおり、コロナウイルスに関する動向が中々見通せない中で、国際交流団体の活動も縮小せざるを得ない苦しい状況になっていると聞いています。このことにつきましては教育委員会としても課題に感じておりまして、これまで通りの事業展開は難しいと考えております。今後の取組につきましては、例えば、コロナ禍によって各方面でオンラインを活用した取組も多くなってきておりますので、オンラインを利用する等の新しい手法について、関係団体と意見交換をしていきたいと考えております。</p> <p>部活動の地域移行につきましては、令和7年度までの3年間で移行するという方針が国から出ておりますので、あくまでも目標として計画の素案に書かせていただいております。しかし、ご指摘のとおり、様々な課題や地域の事情あり、また、国からはこの取組に対する財源についてはまだ具体的に示されていないことから、本当に3年間で移行できるのかは未知数だと感じているところです。このことにつきましては、今後、国や県の動向を注視しつつ、目標に向けて進めてまいりたいと考えております。</p>
<p>市 長</p>	<p>国際交流についてですが、常滑市は中国の宜興市と友好都市提携をしていますので、行き来をする必要はあるのですが、コロナ禍によってそれが難しくなりました。しかし、そのままではいけないので、先ほど教育部長から話があったとおり、オンラインを活用した交流を模索しているところです。</p> <p>部活動の地域移行についてですが、私も委員と同じ意見で、考えれば考えるほど様々な問題が出てきて、難しい取組だと感じています。とはいうものの、令和7年度までという目標をもって全国で取り組んでいくという国の方針が示されておりますので、関係者の方々と相談をしながら、できる限り進めていきたいと考えております。</p>
<p>委 員</p>	<p>部活動の地域移行については、何か先行事例や成功事例はないのでしょうか。</p>
<p>教 育 部 長</p>	<p>他県では、モデル事業として一部の部活動の指導を地域や民間のスポーツクラブに移行させるなどの事例がございますので、そういった事例を調査研究しながら進めていきたいと考えております。</p>

<p>委員</p>	<p>計画の素案の表紙にトコタンが大きく載っていて、常滑の教育における具体的な計画が始まるのかと感じました。読み進めて思ったことですが、やはり、このような計画は、ふたを開けてみると他の市町が策定している計画と同じように見えてしまいがちです。教育大綱の基本理念で「ふるさと常滑を愛し」という言葉や、「三方よしの精神」といういい言葉が記載されているので、今回の計画にも「常滑らしさ」があるといいと思いました。とはいえ、私も「常滑らしい教育とは何か」と問われれば、具体的に答えが出てこないのが、難しいことだとは思いますが、何か基本理念を柱に事業が紐づけできればいいなと思いました。</p> <p>また、計画の「施策にあたっての視点」では、家庭、地域、行政のそれぞれの役割が明記されていますが、個人的な意見としては記載しなくてもいいのではないかと感じました。理由については、例えば「家庭の役割」の部分について、箇条書きで具体的に書かれておりますが、その対象が核家族だけとなっている印象を受けます。記載するのであれば、ひとり親を始めとした様々な家庭の形がありますので、そうした家庭にも配慮した書き方にした方がいいと感じました。</p> <p>次に、基本方針4に「大規模災害や感染症拡大の緊急時においても、子供が安全・安心に学べることを保障します」と書かれていますが、大規模災害や感染症拡大などの緊急時についての取組が明記されていません。おそらく GIGA スクール端末を利用しての自宅での授業配信などに繋がってくるイメージだと思うのですが、その点をもう少し補強できるといいと思います。</p>
<p>教育部長</p>	<p>ありがとうございました。今回議題に挙げさせていただいた計画はあくまでも素案になりますので、ご指摘いただいた文言や計画の構成の部分については、今後、教育委員会内で検討していきたいと考えております。</p>
<p>市長</p>	<p>委員が最初におっしゃっていた「常滑らしさ」については、私たちが他の場面で話題になることがあるのですが、「常滑らしさ」とは何だろうと考えると非常に難しい問題だなと思います。</p> <p>今回の議題となっている教育振興基本計画は常滑市全体で目指すべきことを記載するものだと思うのですが、「常滑らしさ」とは何かと問われたときには、おそらく大抵は「やきもの」という回答になる</p>

	<p>と思います。ところが、実のことをいうと、私が子供のころは、常滑が「やきもの」で有名な町であることを知りませんでしたし、鬼崎の出身なので常滑のイメージは「やきもの」ではなく、「海苔」だったんです。赤土ではなく、海苔のにおいで育ってきたので、それが僕のアイデンティティだったんです。もちろん今は違います。そのため、それぞれの地域や学校でいうと、例えば常滑の中心部では「やきもの」を中心に学んでいく一方で、鬼崎北小学校では「海苔摘み」をします。地域によって特色が違いますので、全体の計画で表現することは難しいかもしれませんが、それぞれの特色に合わせた取組を考え、チャレンジできればいいなと考えています。</p>
<p>委員</p>	<p>第2次常滑市教育大綱が策定されて5か月になりますが、この短期間で計画の素案を作成したということで、非常に意欲的に取り組んでいただいているので、素晴らしいことだと思います。</p> <p>全体的なことですが、文字数が少し多いような印象を受けます。取組の数については、教育委員会はいろいろなことをやっていただいているので、このくらいのボリュームになると思うのですが、読んでいただく方に内容を理解してもらうためには、文字数は控えめにして簡潔にした方がいいと感じました。そうすると相手に意図が伝わりやすいし、作る側も自分が伝えたかったことが明確になってくると思います。</p> <p>また、「家庭の役割」の部分について、私自身、子どもの教育に一番大切なのは「家庭での教育」だと思っていますので、そこを強調した形で策定できればと思いました。これからこの計画に基づいて常滑の教育を推進していくと思いますが、大切なのはそれに関わる「家庭」や「地域」にしっかりと周知し、理解してもらうことだと思います。例えば、学校でいいますと、校長先生に伝えたとしても、現実問題としてその下の多数の教員には中々伝わりにくいという実態があるかと思っています。いかに教育委員会の意図を汲んで、校長先生がどのように他の教員に伝えられるかという話になりますので、広報をしっかりとさせていただきたいと思っています。</p>
<p>教育部長</p>	<p>ご指摘のとおり、たしかに文字が多いかと思っています。今後、ポイントを絞って表現したり、写真などを掲載したりして市民の皆様には計画の趣旨が伝わるような表現方法を検討していきたいと思っています。</p>

<p>教 育 長</p>	<p>私はこれまで出てきたご意見も含めての感想になりますが、まず、委員がおっしゃっていた「常滑らしさ」の表現について、これは難しいなと感じました。例えば豊田市に「豊田市らしさ」を聞いてもおそらく答えることが難しいと思います。市域が大きく、様々な町や村と合併しているため、その地域の特色はあっても市全体では中々思い浮かばないのではないのでしょうか。では、常滑市ではどうかなんですが、市長がおっしゃったとおり、常滑市も地域によって特色が異なっているため、計画に「常滑らしさ」という一つの色に落とし込むのは厳しいと感じました。ただ、いい表現があるかもしれませんので、考えてみたいと思います。また、教育振興基本計画を策定することを明言したのは私ですが、第3章の具体的な取組について、短期間で各担当者が作成してくれたことに感謝しています。</p> <p>これは皆様に知っておいてほしいことですが、まず、この教育振興基本計画がどれだけの市町で策定されているのかについて、愛知県内では把握しておりませんが、尾張部の地域23市の中では、昨年度末の段階で14市です。知多半島で策定していると明言しているのは大府市のみです。また、策定している尾張部14市の中で、教育振興基本計画の中に数値目標まで記載されている市は8市あります。</p> <p>さらに、どのように策定したかという点については、14市のうち4市が業者に委託しています。おそらく常滑市の考えとして業者に委託する選択肢はないとは思いますが、ただ、今回のように常滑市教育振興基本計画を教育委員会だけで策定しようとする、一人勝手というか教育委員会だけの思いを反映したものになってしまうので、次回この計画を見直す際には、策定委員会を設置する等、外部の意見を取り入れるやり方で行っていきたいと考えています。</p> <p>部活動の地域移行については、教育振興基本計画でも示した通り、重点的に取り組まなければいけない課題だと思っています。全国では特定の市町でモデル事業を実施しているようですが、市単位のモデル事業を展開するよりも、部活動をしているいくつかの種目の中で、どれか一つを選んで地域移行を行い、「モデル種目」を作ることが、今後の地域移行を進める上で、重要なのではないかと考えています。そうして、徐々に移行する種目を広げていき、3年後に4～5つの種目の地域移行が完了すれば、成功なのではないかと考えております。</p>
<p>市 長</p>	<p>いろいろなご意見ありがとうございました。実は私は市議会議員を務めていた2013年に教育振興基本計画を策定してほしいと教育委員会に要望していたのですが、9年越しに土方教育長を始めとした教育委員会の皆さんが策定に向けて動き出してくれたことに、大変うれし</p>

	<p>く思っております。</p> <p>それと、教育に関する私自身の考えですが、人間は必ずしも平等ではないと思っています。生まれる地域、生まれた家庭の経済状況など、どうしても不平等の要素は生まれてしまいます。しかし、「機会」だけは平等であるべきとっていて、誰でも這い上がるチャンス、上に行くチャンスはなければいけないと思います。では、その「機会」とは何かとといいますと、それが「教育」だと思っています。教育で自分の人生を勝ち取ることにはできると思いますので、だからこそ教育は平等であるべきと考えています。そのため、塾に行ける子供だけが教育を受けられるのではなく、誰にでもチャンスが与えられるような教育を実施していくべきであると考えています。その点についても、今年度、地域未来塾を強化して、塾に通えていない子を対象にした事業を実施し、一步を踏み出すことができましたので、教育長や教育委員会の皆さんに感謝しております。</p> <p>また、市議会議員の時には、もっと教育に予算をつけるべきだと発言したこともありましたが、やはり、皆が同じ方向を向いて行かなければ子どもたちへのいい教育はできないと思いますし、当時は予算をつけてくれなかったもので、「市長だけ別の方向を向いているんじゃないか」と質問していたこともありましたが、そのため、これからはしっかりと教育に関する取組が充実できるように、予算確保に努めていきたいと思っています。決意表明のようになってしまいましたが、これからも子供たちによりよい教育を提供できるように一丸となって取り組んでまいりたいと思っていますので、教育委員の皆様、教育委員会の皆様にも引き続き、様々なご意見をいただきたいと思っています。</p> <p>その他、何かご意見等はございませんでしょうか。</p> <p style="text-align: center;">《意見なし》</p>
<p>市長</p>	<p><その他></p> <p>それでは、ご意見もないようですので、次第の「その他」に移りたいと思います。何かございませんでしょうか。</p> <p>《次の事項について企画課、学校教育課より情報提供》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セントレア親子サマースクール等の空港関連事業の状況報告

	<ul style="list-style-type: none"> ・地域公共交通協議会について ・コミュニティバス運行に伴うスクールバスとしての活用について ・地域未来塾（試行）の状況報告
<p>教 育 部 長</p>	<p><閉 会></p> <p>ありがとうございました。</p> <p>次回の総合教育会議につきましては、11月18日（金）の午後3時から市役所1階会議室Fで開催させていただきます。</p> <p>それでは、以上をもちまして、令和4年度第1回常滑市総合教育会議を閉会といたします。貴重なご意見ありがとうございました。</p>